



中村俊定文庫
文庫 18
854
2

新撰
俳諧七部集
二



乙日月日記序



乙日月日記と云ふは之の神代と
 祖孫と武臣の源流といふ事にて
 乃ち遺業とそらひて今もかくの
 詠什とありし。素書堂居士の序詞
 ありて之を乙日月の伝記といふ
 所の物ありきと云ふ事にて乙日月日記と

草深廣成仲秋日
 謹席
 華二名入
 謹席
 草深廣成仲秋日
 謹席
 華二名入
 謹席



川西田日記

し

芭蕉庵三日月日記

詩

山素堂

ふち芭蕉の三日月の詩を
うらぬ物しつとねとつ
おもひあつたに設の律と
歌のあつたに其のたの
ふしのうらぬとつとつと

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

巻五

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

草子

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

巻五と後詞

巻五

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

かきつらぬまのうらみはなほあはれ

くはくはのこころをいふははのこころ
梅とて境の梅とて可き梅とて
向土の梅とて可き梅とて
若くは梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて

くはくはのこころをいふははのこころ
梅とて境の梅とて可き梅とて
向土の梅とて可き梅とて
若くは梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて
梅とて可き梅とて可き梅とて

八月やあぢいなるはらゝの夜 百里
九月やあぢいなるはらゝの夜 小観
十月やあぢいなるはらゝの夜 終る
十一月やあぢいなるはらゝの夜 而已
十二月やあぢいなるはらゝの夜 終る
正月やあぢいなるはらゝの夜 終る
二月やあぢいなるはらゝの夜 終る
三月やあぢいなるはらゝの夜 終る
四月やあぢいなるはらゝの夜 終る
五月やあぢいなるはらゝの夜 終る
六月やあぢいなるはらゝの夜 終る
七月やあぢいなるはらゝの夜 終る
八月やあぢいなるはらゝの夜 終る
九月やあぢいなるはらゝの夜 終る
十月やあぢいなるはらゝの夜 終る
十一月やあぢいなるはらゝの夜 終る
十二月やあぢいなるはらゝの夜 終る

世月一まゝはらゝの夜 松風
彌かこよほしはらゝの夜 千川
八月やあぢいなるはらゝの夜 終る
九月やあぢいなるはらゝの夜 終る
十月やあぢいなるはらゝの夜 終る
十一月やあぢいなるはらゝの夜 終る
十二月やあぢいなるはらゝの夜 終る

譲名

八月やあぢいなるはらゝの夜 曲水
九月やあぢいなるはらゝの夜 終る 津六

ふらうしめかぬるのりて 里木

名月や海しらすのさし 去来

山部直道一

名月や花さきも月のまはら 全

物もさしらすのさ月て家 史邦

藤原のふらうし

名月や花さきも月のまはら 珍碩

名月や花さきも月のまはら 湯子

名月や花さきも月のまはら 嵐雪

梅のさかすまも月のまはら 柳清

名月や花さきも月のまはら 春

秋のさかすまも月のまはら 梅有

名月や花さきも月のまはら 雨洞

名月のさかすまも月のまはら 嵐南

名月や花さきも月のまはら 善和

名月や花さきも月のまはら 仙化

ふもこのまゝ入るはつと月 漢石

ねつと

長崎やあまのきりしきり月 呂

名月やあまのきりしきり月 重行

いふとあまのきりしきり

いふとあまのきりしきり

納涼のおくしきりしきり和漢
月のあまのきりしきりし

芭蕉

破風のよはれやよる夕涼

煮茶 蠅 避 烟 素堂

台 歡 醒 馬 上 全

かきとれ小田のあまのきりしきり 蕉

月 代 見 筆 氣 堂

霧 綴 添 玉 涎 全

張旭の地をなぐる酔の中
幢とたなよこねた竹

却平帝^テ驅^ラ偷^ラ竈^ラ 堂

ゆきまゆゑのあふかたを

くわくわく首のさか松の梢

れとのしほよのともる

舟^ネ鑄^カ凡^ソ早^ク浦 堂

鐘^ノ絶^ト日^ノ高^ク川 堂

顔^ノく^り早^高の^ほよ^もの^まを

金^のも^のけ^ぬ故^を火^のけ

説^ノ教^三社^本 堂

韻^使立^車墳^ト 堂

花^月丈^山園 堂

の^降と^杯け^くた^のそ^る

前^カ銀^點一^寸 堂

真^面の^淺や^かと^難し

あり^ま頭^の証^とか^やし

風強唯早乾

蕉

うらみはる春のよあけの松

堂

ゆき火とゆき座の夕月

蕉

雨霧新顔朝顔

堂

雲浦目潜亭

蕉

あまのこゝろあまのこゝろ

堂

あまのこゝろあまのこゝろ

蕉

山伏山平地

堂

山景山小天

全

鶴鶴水鉢

蕉

あまのこゝろあまのこゝろ

堂

あまのこゝろあまのこゝろ

蕉

臨谷伴蛙仙

堂

元禄八月八日終

三日月塚誌

一 孝子保康成のまら母の墓園なる
く くのまら母の墓園なる
塚と造らるるに、
遺跡ありと云ふの碑ありて
ふくまら母と云ふの碑ありて

の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓
の社の親切ふくまら母の墓

此の書は...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

五鶴主人
 海老坊里紅梅誌



石塔法養 長歌行

里紅

之日月の義をばかりて水

行けい山の向きし時 未夕

唐韻もろはの智ある時 風草

あまの葉の縁の縁より 嵐七

おぼやとせねぬ城も中代並 芳雅

りよあかりぬやかりく華 白之

新地よりまゝの町のみも 野秋

あまのけいひの葉の青葉 千知

あの子もつとせと流るる武田流 兆而

木の傍よりと釋の外の 一飛

あまのめいほの葉のやま 魯子

あまのあまの葉ののり 里柳

小神もあまの葉の音も 宇北

あまのあまの葉の音も 友松

月のあつちをわくねの丁の日 吳天
 赤の池をよこすか下冷 京
 春の解をいふしあつちの温 夕
 殿も御も皆十八の 錐
 鳥起とつと時計の四の下り 七
 仰の赤をまゝの指をの 板
 鐘計をよけよけよけと 之
 雲とつと雲とつと雲と 而

短冊もむの柄よきやー？ 知
 池もまゝのやよけよけよ 子
 珠も角にー？ まゝの 飛
 都もよけよけよけのまゝ 兆
 千世とつとつとつとつと 押
 んほつとつとつとつとつと 了
 ちふもつとつとつとつとつと 妻
 園とつとつとつとつとつと 夕

羽黒山十詠

羽黒、曉鐘

こゝ月のかりて花日や曉の湯 蓮二房

兩苦山探

ふけけの山よりけやいのき 坂角

春風春雨

春風の名や雨降くまのる 藤守

吹越青嵐

早し〜河ゆきり吹越のま〜 山崎

袖浦漢火

い〜火の襟より〜神の湯 豊島

鶴園夕夜

蓮葉のゑやふけの露 竹藪

月山有明

〜のち〜る〜月〜 侍彦

寂上川鷹

梅亦や鷹も世とくふる寂上川 野洲

鳥渡暮雪

鳥渡のやまなみち 暮の音 巴岸

南谷紅葉

このえは紅葉のなみち 百河港

追加

題まら母写

象深やとく之田帳の了まら 伊勢 乙由

野々味の竹やぶ葉のまら 枕物

筆うもいさく橋根の住み 東葉

秋波の初もよ岸のゆふ 午潮

雷のあゝ霧もさ月おふ 仙行

まらゆもあまのほせや 玉之

唐紅のちりきりや書の内 夜白

まもややあやのちりきり 松夫

ちりきりきりきりきり 朔昔

ふ月しは世の結ぶや書ぶふ 京 昔仲

しちりきりきりきり 小 虎守

ねもれよは風と料の胡底の 山只

名月や書ぶきりきり 杜 杜音

はしりきりきりきり 近江 佐角

木のちりきりきり 羽 羽衣

ゆもれきりきり 寧 寧陀

あはちりきり 美濃 白狂

桐のちりきり 徳 徳入

薩仲のちりきり 童 童平

ちりきりきり 水 水胡

連ちりきり 史 史前

徳国府祖父のちりきり 徳 徳太

鳴くたの園のよしののち大や 百琴
 つく通の秋の海を 引きれ書 伯楓
 其園の町さくさくお水宮を 舞哉
 名月や城の籠と雪の籠 栗丸
 らの秋や後よ息のつらさ 六芒
 音をや夕起とつら 東羽
 夕さのこころ 移ありまの早さ 子筆
 葉のむのう秋のこころ 似四

清仏は舞とほつわ 仕舟とふ 達子
 川浦より牛よつらとたぬよふい 舞山
 まかられぬ御よまの月 せ松
 梅のきり 花と雪とふふく 三也
 しゆめい 雲や舞るの物 俊 隆五
 岸く 一もたれお花やまの山 与平
 舞のの 雲や 垣根よ ころね 杖 丰彦
 風のまのやらちく 海舟の 帆の雲 楊波

ゆかたの仕振よ 舞ふ極む 呂夜

心の名のきくも 小まき 高島

海山の飾や 賑は 比々 鯛 杉夜

うねるうけて 雲や 月おの 吟ふ 来巴

山吹の海より 流て や 舞の 鐘 雲明

ちねも 庭に 積るれ 雲ふ 琴子丸

名目や 吟く 向くる まで 目流 藤先

まぢより きのりも 舞う 池保 雅巴

あらしよ 秋も 雨の 中 舞は 巴在 尾張

雪の 舞も ちも 踊り 余さ くれ 三往

し ー ー ちさら 月お かね 舞 来士

雪顔 巾の 舞は 踊る 馬六

名 舞の 舞は 舞の 舞は 舞は 以え

汗 舞を 舞の 舞と 舞の 舞は 来怒 城前

つん 舞より 舞の 舞の 舞の 舞は 紀白

は 舞の 舞の 舞の 舞の 舞は 馬六

所 物中柳のくけのさうと
 蘇ち
 春のちりりや子川
 山崎
 白鷺の義を埋じま田う
 風曲
 雪やまもあもさのりよ
 希田
 蜂の園は故を約青の上ま
 能登 司野
 雪ち振らひりり
 夏味
 七夜の雪は紅花
 越中 方野
 七夜のあまりと初よ八を
 廉後

松さく竹さ白らやむ
 風吹
 春松の伸まらうや
 帆りね
 眉泉
 味も橋の的さ
 杜亮
 雪はさのりり
 辰言
 一おほいおきか
 巴亮
 花も除く
 林江
 春あすの
 互超
 風の中
 二川

竹の子れけり可代やき牡丹 一唄

山吹やまの類いふのき活 倚彦

きつるのけいふらふらふら 枝中

ますの類もゆふ柳れ 越後 九蚌

くらふし應村の名あし 松の若 貞虎

系深よあをぬのらふ 暈のむ 如氷

むらやあやふふふふふふ 暮耳

鶴人の思のあさかちらふ 飼 せ由

まわりのきききききききき 丹あな 登州

降子まふふふふふふふふ 此柱

あくのあし浦きしあふふ 葉園

あつと波のふらふらふら 比須

積雪の一圃を凍 戻れ台 存仙

山姥とあふふふふふふふ 江戸 水翁

百歳の日初ふらふらふら 長氷

百一ふらふらふらふらふら 飛弾 午有

五

しよらへふの名あると二ツ軍 遊軍

こころやましくおしちのこけきこい 依中 義軍

収耀よりのちぶねの柳を 讚岐 筆花

名月やあつなきえらき野原 苑古 吉雨

酒宴のあふらりうて橋のむ 杏雨妻 市女

る味て心まて愛さしうら 肥後 乙詔

名月や町をさしうら市代とあり 長門 尾朝

海ほむと茶もこころてこをさる 松崎

おれしきこひさしき 長崎 加十

ほくさぬくと信あつ 其早

府をのりしかねさちあつ 依渡 北樓

おむじぬやねのしりけ 袁雪

かゝ鶴と折らるるも 出羽 世仰

海とやあつなきえらき野原 本庄 英義

アゝあつこのこゝろあつちの 知師

あつたのこゝろあつちの 英良

名月や福の福並の子多き哉 浮節

夕まよふ 不常 流とや 蛇牛 延物

ふたむねの染つて 下 田植哉 常体

月影と 流し 流とや 藤州 亦 友形

川きこも 知れども なく 花心 捨丸

襟も しくも 飛り 下 常と 亦 自習

年川の 年と 常と しくも 跡介 松根

あつた 流と しくも 流の 跡介 亦 養風

流るる しくも 流る 野と 林の 鳥 可及

七曲 八曲 下 流 一 亦の 中 亦 東曉

まわりの しくも 流る ぬ ぬ あり ぬ 伝じ 百溪

あつた 流と しくも 流る ぬ ぬ あり ぬ 伝じ 俚ら

流神と 拂つて しくも 流る ぬ ぬ あり ぬ 伝じ 柳屋

藤の ちや 流子 一 亦の 山 亦 山 草風

お梅や 亦の ちや 流子 一 亦の 山 亦 山 素石

流るる 流の ちや 流子 一 亦の 山 亦 山 永社

神のゑもよと書しる所のゑもよ 方上

くしとや別保とてははるかな 久武

あつちや園の席下の様は 雲中

あふとちやふとてははるかな 藤場 呂加

立春のふるふをさるるあふ 竹壘

山ゆきや化装の静しる鏡 荷川 荀雨

名月や藤下とれたのぬるふ 鶴岡七人 竹郷

卯のくねい母れをよとやる 山七 楓

ゆきや改修くし山の形 呈天

まじりしちのまじりやゆきのじ 胡々

色らふあふとてははるかな 舟英

山里やうとてははるかな 松亭

ゆきとてははるかなのまじりやゆきの月 洵水

雨のぬきとてははるかな 五七

くはるやあふとてははるかな 百八

法よりよぬきとてははるかな 弁行

結の法美々々々まの彼岸の
 三郷普
 けけけけけけけけけけけけ
 一穂
 草のもし新御の終り
 山風
 吸筒も海とまじり
 千峯
 任者の移り
 東明
 うくさくさ
 里柳
 竹葉のそよ風
 澄心
 けけけけけけけけけけけけ
 巴

一文の蓮の葉
 唐か
 五月の日の影
 一葉
 羽者
 閑よりの影
 末山
 芳仙
 清く
 里飛
 虹の尾
 永南
 まま
 一葉
 指三
 雲遊

後ら氣もあはくはくをた雲は 不止
あられきりくはの作りの片は 如嶺
うらきや夕日のあまの中 市南
まの心まのちまのこの内あは 梅吟
風のまよと振るるるふもふ 可恕
名月や富士と日午の男あはり 僧 和蕙
許えのふは折るる火煙ふ 壺英
御の深よかふるふふふふふ 杜由

原句のふともま〜かあひのあま 宇北
入あよえええええええええ 枝睡
月よのふふふふふふふふふ 南江
通る矢のあま〜あまあまあま 一飛
引るのあま〜あまあまあま 嵐うた
権やあま〜あまあまあまあま 只白
あまのあま〜あまあまあまあま 白之
あまのあま〜あまあまあまあま 素舟

ま子たの袂くわくやぶの巻	野秋
るの白や流しおと娘子れそ	十知
牙は色のけしよよあやまのむ	兆而
大ねと隔よちき一暮妻は系	芝雛
福妻の心寄るまよあやまの歌	魯子
りまのあはら濁さぬ日紅哉	友松
母の業心を信しあうて枯るるぬ	李夕
君より先まゝしん讀とあまき花	風草

二日月塚懐旧

昔もよしの丘塚へくまへしんあふの
 けしきのおくちふしなとあふあふあふし
 流しあかちのあふのあふあふあふあふ
 飛凍のあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふのあふあふあふあふあふあふ
 流のあふあふあふあふあふあふあふ

さあさあ~~~~~秋の夕暮のささやき
いよせい (C) せいせい (C) せいせい (C)

連二夜入

夜も心出羽の國さあさあ
~~~~~いよせい (C) せいせい (C) せいせい (C)  
みよせんのさあさあ~~~~~  
秋の夕暮のささやき

懐才會詩名目

季夕

月さあさあ~~~~~  
~~~~~いよせい (C) せいせい (C) せいせい (C)  
~~~~~いよせい (C) せいせい (C) せいせい (C)  
~~~~~いよせい (C) せいせい (C) せいせい (C)

憶昔夕陽時雨

風草

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

